

水 道 事 業
主 要 指 標

－ 中 核 市 比 較 －

指標	(1) 普及率	望ましい 方向	↑	各自治体の人口のうち、水道の給水を受けている人口はどのくらいの割合かを表す。
----	---------	------------	---	--

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 現在給水人口(人)	475,233	475,331	474,313	473,218	471,203	98.0	31	A
B: 行政人口(人)	477,393	477,448	476,386	475,163	473,101			
普及率(%) (A/B×100)	99.5	99.6	99.6	99.6	99.6	%	位	

評 価 内 容
中核市平均より高く、ほぼ市内全域に普及している。 給水区域内に点在する未給水の小規模集落については、地域の特性や住民ニーズに応じて将来の水供給のあり方を検討するとともに、「大分市上水道未整備対策支援事業(※2)」により生活用水の供給支援を行っている。 現在、花香・上石川の未整備地区の解消に向けた取組が行われている。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

※2 大分市上水道未整備対策支援事業：上水道未整備地域で住民が給水施設を設置する場合に、補助金を交付するもの。財政負担は上下水道局ではなく市の一般会計。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(2) 給水原価	望ましい方向	↓	水道水1m ³ を作るのにどのくらいの経費が必要かを表す。
----	----------	--------	---	--

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 経常費用(億円)	67.9	70.4	69.0	75.5	76.0	167	38	D
B: 年間有収水量(※2)(万m ³)	4,471	4,564	4,526	4,494	4,464			
給水原価(円/m ³) (A/B×100)	152	154	153	168	170			
						円	位	

評 価 内 容
令和5年度は、前年度同様中核市平均より高くなった。(R4中核市:165円/m³) 上昇の要因は、昨今の労務単価の上昇による委託費や工事費の増加、電気料金の高騰などの経常費用の増加である。 また、分母となる有収水量については、コロナ禍の巣ごもり需要がなくなり現状の水準に戻った。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

※2 年間有収水量：1年間で配水池などから送り出された水量のうち、水道メーターを通過して料金徴収の対象となった水量のこと。

< 総配水量=有効水量(有収水量+無収水量)+無効水量 >

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以下で、良好な水準にある B. 平均を上回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以下であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を上回り、指標が悪化している

指標	(3) 供給単価	望ましい 方向	↓	水道水1㎡当たりの水道の使用単価がどのくらいかを表す。				
算 定 方 法		大 分 市 実 績				R 5 中核市（59市※1）		
		戦略期間（R 1－R 4）			ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5		
A: 水道料金収入(億円)		88.5	88.8	88.4	83.2	82.8	172	43
B: 年間有収水量(※2)(万㎡)		4,471	4,564	4,526	4,494	4,464		
供給単価(円/㎡) (A/B×100)		198	194	195	185	186	円	位

評 価 内 容
令和5年度の水道料金収入については、令和4年度に実施した一時的な基本料金の減免(物価高騰対策)による減収が回復する一方で、料金改定を行ったことにより、結果として0.4億円減少した。 一方で、分母となる年間有収水量も減少したことにより供給単価自体は前年度と同水準となり、中核市平均より高い状況である。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

※2 年間有収水量：1年間で配水池などから送り出された水量のうち、水道メーターを通過して料金徴収の対象となった水量のこと。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以下で、良好な水準にある B. 平均を上回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以下であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を上回り、指標が悪化している

指標	(4) 回収率	望ましい 方向	→	給水原価が水道料金によりどのくらい回収されているかを表す。
----	---------	------------	---	-------------------------------

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 供給単価(円/㎥)	198	194	195	185	186	103.7	15	A
B: 給水原価(円/㎥)	152	154	153	168	170			
回収率(%) (A/B×100)	130.3	126.1	128.0	110.3	109.0	円	位	

評 価 内 容
中核市平均より高く、水準を維持できている。 令和5年度決算においては、10.4億円の当年度純利益を計上しており、将来の企業債の償還や施設の更新需要増大に備えて積み立て、将来にわたり持続可能な経営基盤の強化を図っていく。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(5) 施設利用率	望ましい方向	→	水道施設の能力に対してどの程度利用をしているか、効率性を表す。
----	-----------	--------	---	---------------------------------

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 1日平均配水量(万m ³)	13.7	14.1	14.0	13.9	13.8	62.6	21	A
B: 施設能力(万m ³ /日)	19.2	20.4	20.4	20.4	20.4			
施設利用率(%) (A/B×100)	71.1	68.9	68.6	68.2	67.4	%	位	

評 価 内 容
中核市平均より高く、水準を維持できている。 令和5年度の1日最大配水量14.8万m³に対する施設利用率は約72%であり、設計指針のなかでは最大75%で運用していただくことが望ましいとなっていることから、効率的に施設を運用しており、安定した給水体制を確保している。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(6) 有収率	望ましい 方向	↑	配水量のうち、水道メーターを通過して料金徴収の対象となった水量の割合を表す。
----	---------	------------	---	--

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 年間有収水量(※2)(万m ³)	4,471	4,564	4,526	4,494	4,464	90.6	43	B
B: 年間配水量(万m ³)	5,004	5,130	5,108	5,082	5,036			
有収率(%) (A/B×100)	89.4	89.0	88.6	88.4	88.7	%	位	

評 価 内 容
中核市平均より低い状況が続いている。 これまで、指標を向上させていくために、無収水量(水道管洗浄、消防用水など)や無効水量(主に漏水)の減少に向けて、漏水防止対策に特に注力し、漏水発生の可能性が高い材質の水道管(普通鋳鉄管・亜鉛メッキ鋼管・硬質塩化ビニール管)の優先的更新に取り組んだ結果、前年度より改善している。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

※2 年間有収水量：1年間で配水池などから送り出された水量のうち、水道メーターを通過して料金徴収の対象となった水量のこと。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(7) 水道料金収入に対する企業債残高の割合	望ましい 方向	↓	年間の水道料金収入に対する企業債残高の規模を表す。
----	------------------------	------------	---	---------------------------

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（59市※1）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 企業債(※2)残高(億円)	213.3	211.9	206.0	200.8	199.2	287.1	35	A
B: 水道料金収入(億円)	88.5	88.8	88.4	83.2	82.8			
水道料金収入に対する企業債残高(%) (A/B×100)	240.9	238.7	233.1	241.3	240.5	%	位	

評 価 内 容
令和5年度は中核市平均より低く、企業債残高は前年度より1.6億円減少したことで、0.8ポイント減少し指標の改善がみられた。分母の水道料金収入は、令和4年度の物価高騰対策により減収し、令和5年度は、料金改定による減収となった。 今後は、積極的な管路及び施設の更新による事業費の増加に伴い、令和6年度から令和9年度にかけて企業債の発行額と残高の増加が見込まれるものの、将来的には残高の削減を目指す。

※1 中核市59市には越谷市と八戸市の企業団を含む。

※2 企業債：地方公共団体が、地方公営企業(例：大分市上下水道局)の施設建設等に要する資金を調達するために行う借入れのこと。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以下で、良好な水準にある B. 平均を上回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以下であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を上回り、指標が悪化している

水 道 事 業

経営ビジョンの取組内容評価表

－ 強 靱 ・ 持 続 －

区分	強 靱	推進項目	(1)水道管路の耐震化の促進		経営ビジョン 対応ページ	P35.36	担当課	水道整備課 水道維持管理課	
取組内容	①基幹管路(※1)の耐震化 ・基幹管路の耐震適合率(※2)の向上。			実績 / R5の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
				～R4	ビジョン期間(R5-14)				
					R5計画				R5実績
	A：耐震適合管の管路延長(km)			100.6	101.8	101.0	(最終目標 R30年度 100%) R14年度 80%	S	S
	B：基幹管路総延長(km)			143.4	144.6	141.5			
基幹管路の耐震適合率(%) (A/B×100)			70.2	70.4	71.3				

評価内容と今後の取組

令和5年度は、古国府浄水場～森岡山配水場間及び下郡ポンプ所～横尾浄水場間の送水管や公共工事に伴う布設替えなどにより、目標を上回って達成することができた。
令和6年度は、庄の原第1配水池～三芳配水場間の配水本管布設替の詳細設計に着手し、令和10年度の完成予定。

※1 基幹管路：導水管、送水管、口径400mm以上の配水本管のこと。

※2 耐震適合率：耐震性能のある管や、強い地盤に布設された耐震適合性のある管の、管路全体に占める割合。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	強 靱	推進項目	(1)水道管路の耐震化の促進		経営ビジョン 対応ページ	P35.36	担当課	水道整備課		
取組内容	③重要給水施設への管路の耐震化				実績 / R5の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
	・重要給水施設(※1)への管路耐震化数の増加。				～ R4	ビジョン期間(R5-14)				
						R5計画				R5実績
重要給水施設への管路耐震化数(箇所)					12	12	12	(最終目標 R15年度 全33施設) R14年度 31施設	S	S

評価内容と今後の取組

- ・令和5年度は、植田市民行政センターへの配水管布設替工事(1工区)が完成するなど、整備は順調に行われている。引き続き発注時期の平準化など入札不調対策を行いながら事業を進めていく。
- ・令和6年度は、明野支所の配水管布設替工事や植田市民行政センターの配水管布設替工事(2工区)に着手し、令和7年度完成予定。

※1 重要給水施設：大分市の行政施設13施設、消防署・警察署6施設、大規模病院9施設、大規模透析病院3施設、大規模避難施設2施設を指す。計33施設。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	強 韌	推進項目	(2)災害時の給水確保	経営ビジョン 対応ページ	P37.38	担当課	水道整備課	
取組内容	①緊急時連絡管の整備					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・災害時に、主要浄水場(古国府、えのくま、横尾)間で水融通を可能にする緊急連絡管の整備 ・古国府浄水場～横尾浄水場間：令和5年度供用開始 ・古国府浄水場～えのくま浄水場間：令和7年度供用開始							
	実績 / R5の計画・実績（取組）					R7年度 緊急連絡管 の 整備工事 完了	S	S
・古国府浄水場～横尾浄水場間 ：令和5年度 工事完了 ・古国府浄水場～えのくま浄水場間 ：令和5年度 詳細設計完了								

評価内容と今後の取組

- ・古国府浄水場～横尾浄水場間は、令和5年度に工事が完成した。
- ・古国府浄水場～えのくま浄水場間は、令和7年度に工事完成予定となっており、計画通りに進んでいる。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	強 韌	推進項目	(2)災害時の給水確保	経営ビジョン 対応ページ	P37.38	担当課	水道整備課		
取組内容	②緊急遮断弁(※1)の整備 = 災害時の水の確保			実績 / R5の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
	・浄水場や飲料水用耐震性貯水槽による貯水能力の整備及び主要な配水池に緊急遮断弁を整備することにより、大分市民が約1週間生活できる水量(※2)の確保 ・令和5年度、丹川配水池に緊急遮断弁を設置			ビジョン期間(R5-14)					
				～R4	R5計画	R5実績			
全施設貯水量(m³)				47,400	48,900	48,900	R5年度 全施設 貯水量 48,900m³ (※5)	S	S

評価内容と今後の取組

・令和5年度に丹川配水池の整備が完了し、全施設貯水量48,900m³の目標を達成した。

※1 緊急遮断弁 : 地震(震度5強)などの異常を検知すると、自動的に緊急閉止できる機能を持ったバルブ。

遮断弁が閉止することで配水場等からの水道水の流出を防ぎ、災害時の飲料水等を確保することができる。

※2 大分市民が約1週間生活できる水量 : 大分市行政人口476,386人(令和4年3月末時点)、1～3日目:1人1日3リットル、4～10日目:1人1日20リットルを災害時使用水量として計算。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推進項目	(4)管路・施設の更新	経営ビジョン 対応ページ	P41.42	担当課	水道整備課 浄水課	
取組内容	③主要3浄水場の再構築			実績 / R5の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5単年度 目標 に対する 評価
	古国府浄水場	・浄水処理能力の安定化 ・配水監視システム変更の検討 ・森岡山配水池への送水能力の強化		森岡山配水池の送水ポンプ、送水管の更新を完了した。		—	—	—
	えのくま浄水場	・浄水汚泥の減容化と脱水機設備の更新 ・えのくま浄水場の同一敷地内での更新検討		脱水機棟の更新工事が完了した。				
	横尾浄水場	・具体的な更新計画の確立（移転候補地の調査等）		非常用発電設備の設置工事に着工した。				
	・令和6年3月に「大分市主要浄水場等再構築基本計画」の全取組をフォローアップした改訂を行った。							

評価内容と今後の取組

令和5年度は、主要浄水場については、再構築計画に基づいて計画的に事業を進めた。
【古国府】令和6年度より、配水監視システムの基本設計、導入可能性調査を行い、令和10年度の完成予定。
【えのくま】令和6年度は、脱水機設備の更新工事を完了し、令和7年度に既存脱水機と減容化システムの連携を行う。
 令和6年度は、取水ポンプ更新工事に着工し、令和7年度末の完成予定。
【横尾】令和6年度、非常用発電設備の設置工事が完了予定。
 今後は、再構築計画に基づき、将来の水需要に応じた効果的・効率的な水道施設の整備規模及び更新時期の適正化を図る。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推進項目	(5)管路・施設の効率的な維持管理	経営ビジョン 対応ページ	P43.44	担当課	水道整備課 浄水課	
取組内容	③東部配水能力の強化の検討 ・市内東部エリアにおいて、配水管網の増強や配水池などの統廃合を行い、施設配置の適正化を検討することで今後予想される水需要の増加および地下水源の能力低下に備える					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
実績 / R 5 の計画・実績（取組）						－	－	a
・丹川ポンプ所の機械設備及び電気設備の耐用年数経過による更新に併せ、将来的な丹川配水池の給水区域の拡大を見据えた丹川ポンプ所のポンプ設備の増強とそれに適した容量の電気設備の更新を行う。 令和5年度は、丹川ポンプ所機械・電気設備更新工事に着手した(令和6年度完成)。 ・令和5年度は新城原配水池の基本設計に着手し、将来の東部エリアの水需要の予測を行った(令和6年度完了)。								

評価内容と今後の取組

- ・令和5年度は、東部配水能力強化の方針を固め、事業に着手することができた。
- ・丹川ポンプ所の更新工事は順調に進んでおり、令和6年度末、更新工事完成予定である。
- ・新城原配水池については、令和6年度末の基本設計完了に併せて配水施設の再配置の検討を行う。
また令和7年度より、詳細設計、地質調査に着手し、令和12年度の供用開始を目指す。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推進項目	(6)将来の経営環境に備えた財政基盤の強化	経営ビジョン 対応ページ	P45.46	担当課	経営企画課	
取組内容	①建設改良積立金(※1)の確保 ・毎年5億円程度を各年度の純利益から積み立てる			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
				ビジョン期間(R5-14)				
				～ R4	R 5計画 R 5実績			
	建設改良金の積立累計額(億円)			32	36	37	R14年度 80億円	S

評価内容と今後の取組

令和5年度は5億円を積み立て、積立累計額は令和5年度目標額の36億円を上回っている。
今後も引き続き、主要3浄水場の施設更新に備え、毎年5億円程度を積み立てる。

※1 建設改良積立金：建設又は改良工事等を行うための財源として充てる目的で利益から積み立てる資金。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推 進 項 目	(6)将来の経営環境に備えた財政基盤の強化	経営ビジョン 対応ページ	P45.46	担当課	経営企画課		
取組内容	②適正な企業債(※1)の発行と着実な残高削減 ・計画期間中で着実な残高削減に務める			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
				～ R4	ビジョン期間(R5-14)				
					R5計画				R5実績
	企業債残高(億円)				202	204	199	R14年度 200億円 以下	S

評価内容と今後の取組

令和5年度末時点での企業債残高目標である203.7億円を下回っている。
 今後は、積極的な管路及び施設の更新による事業費の増加に伴い、資本的収支不足額も増加するため企業債の発行による残高は増加傾向となるが、令和10年度以降は減少に転じる見込みとなっており、令和14年度の200億円以下の削減目標達成に努めていく。

※1 企業債：地方公共団体が、施設建設等に要する資金を調達するために借入れる地方債のこと。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

公 共 下 水 道 事 業
主 要 指 標

－ 中 核 市 比 較 －

指標	(1) 普及率	望ましい方向	↑	各自治体の人口のうち、下水道が整備された区域の人口はどのくらいの割合かを表す。
----	---------	--------	---	---

算定方法	大分市実績					R5中核市（62市）		
	戦略期間（R1－R4）				ビジョン期間（R5-14）	中核市平均	大分市順位	評価
	R1	R2	R3	R4	R5			
A: 処理区域内人口(人)	304,243	308,870	315,238	324,055	332,020	84.4	53	B
B: 行政人口(人)	477,393	477,448	476,386	475,163	473,101			
普及率(%) (A/B×100)	63.7	64.7	66.2	68.2	70.2	%	位	

評価内容

中核市平均を大きく下回ってはいるものの、令和5年度は令和4年度と同様に前年度より2.0%と大幅に向上した。今後も人口密集地区や早期接続数が多く見込める地区を優先整備するとともに、設計・施工一括発注(DB)方式(※1)による工事発注や未整備地区にある集中浄化槽団地の引取りにより、更なる普及率向上を図る。
 【参考】公共下水道事業の全体計画(332,020人)に対する普及率は74.2%

《大分市の普及率が低水準である要因》

- ①他の中核市に比べ事業開始が遅かった。
- ②市域が広く、2つの一級河川が市域を分断している地理的要因から管きょ延長やポンプの数量が増大する、処理場が5か所必要になるなど整備に期間を要する。
- ③市の財政状況により整備事業費を抑制した時期がある。

※1 設計施工一括発注(DB)方式：設計及び施工の両方を一括して発注する方式。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(2) 水洗化率	望ましい方向	↑	下水道整備済の区域において、接続利用している人口はどのくらいかを表す指標。
----	----------	--------	---	---------------------------------------

算 定 方 法	大 分 市 実 績					R 5 中核市（62市）		
	戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 水洗化人口(人)	281,912	286,261	290,957	302,447	315,995	95.1	38	A
B: 処理区域内人口(人)	304,243	308,870	315,238	324,055	332,020			
水洗化率(%) (A/B×100)	92.7	92.7	92.3	93.3	95.2	%	位	

評 価 内 容
前年度より1.9%と大幅に向上し、中核市平均を0.1%上回った。 公共下水道整備済区域面積の拡大と、民間事業者に委託している普及促進員による地道な訪問活動、また公共下水道への早期接続に効果のある水洗便所への切替に対する助成金や、令和7年度まで延長している共同住宅に対する助成金などの取組みの効果が出ている。

【中核市平均との比較評価】 A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している
--

指標	(3) 汚水処理原価	望ましい方向	↓	汚水(有収水量1㎡)を処理するのに下水道事業でどれだけ費用がかかるかを表す。					
算 定 方 法		大 分 市 実 績					R 5 中核市 (62市)		
		戦略期間 (R 1－R 4)				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
		A: 汚水処理に係る経常費用(億円)	51.8	51.0	51.8	51.6	51.3	150 円	35 位
B: 年間有収水量(※1)(万㎡)	3,305	3,334	3,354	3,365	3,372				
汚水処理原価(円/㎡) (A/B×100)	157	153	155	153	152				

評価内容

中核市平均より高いものの、中核市平均が年々上昇する(R3中核市:146円/m³、R4:147円/m³)なか、令和4年度以降下落を続けることで指標が改善している。
 下落の理由は、支払利息の減少などにより経常費用が減少したこと、年間有収水量が増加したこと。
 今後も、設計・施工一括発注(DB)方式(※2)による効率的な管きょ整備などにより有収水量の増加を図るとともに、経常費用を抑制し汚水処理原価の引き下げにつなげる。

※1 年間有収水量：水資源再生センターに流入する処理水量のうち、下水道使用料徴収の対象となった汚水の年間水量のこと。

※2 設計施工一括発注(DB)方式：設計及び施工の両方を一括して発注する方式。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以下で、良好な水準にある B. 平均を上回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以下であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を上回り、指標が悪化している

指標	(4) 使用料単価	望ましい方向	→	有収水量1㎡当たりの下水道の使用単価がどのくらいかを表す。					
算 定 方 法		大 分 市 実 績					R 5 中核市（62市）		
A: 下水道使用料収入(億円)		戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
		51.4	50.8	51.2	51.6	51.8			
B: 年間有収水量(※1)(万㎡)		3,305	3,334	3,354	3,365	3,372	150 円	36 位	A
使用料単価(円/㎡)（A/B×100）		156	152	153	153	154			

評 価 内 容

中核市平均よりも高く水準を維持できている。
 令和2年度のコロナ禍の影響による下落(事業所の従量料金単価の高い水量帯の使用が落ち込んだことによるもの)以降、使用料単価は徐々に上昇し、コロナ禍前の水準に戻った。
 使用料単価の国が求める水準は150円以上であることから、今後も汚水処理原価とのバランスを考慮しつつ、単価が高くなりすぎることをないよう維持していく。

※1 年間有収水量：水資源再生センターに流入する処理水量のうち、下水道使用料徴収の対象となった汚水の年間水量のこと。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(5) 有収率	望ましい方向	↑	処理する下水量が、下水道の使用料収入にどの程度つながっているかを表す。					
算 定 方 法		大 分 市 実 績					R 5 中核市（62市）		
		戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5			
A: 年間有収水量(※1)(万㎡)		3,305	3,334	3,354	3,365	3,372	79.4	31	D
B: 年間処理水量(万㎡)		4,235	4,313	4,246	4,141	4,267			
有収率(%)（A/B×100）		78.0	77.3	79.0	81.3	79.0	%	位	

評価内容

前年度より2%下がり、再び中核市平均を下回った(R3中核市:80.0%、R4:80.6%)。公共下水道の整備促進により、年間有収水量は年々増しているものの、年間処理水量が雨水流入などの不明水の影響が出ている。
有収率の着実な向上を図るため、整備促進、接続促進はもちろんのこと、管きょのスクリーニング調査(※2)等による適切な維持管理と効率的・効果的な改築、更新及び必要な修繕を引き続き行う。

※1 年間有収水量 : 水資源再生センターに流入する処理水量のうち、下水道使用料徴収の対象となった汚水の年間水量のこと。
※2 管きょのスクリーニング調査 : 調査を効率よく実施するために、管きょを広範囲に迅速に調査し、詳細調査が必要な対象箇所を絞り込むことを目的としたもの。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以上で、良好な水準にある B. 平均を下回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以上であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を下回り、指標が悪化している

指標	(6) 下水道使用料収入に対する企業債残高の割合	望ましい方向	↓	年間の下水道使用料収入に対する企業債残高の規模を表す。							
				算 定 方 法		大 分 市 実 績			R 5 中核市（62市）		
				戦略期間（R 1－R 4）				ビジョン期間(R5-14)	中核市 平均	大分市 順位	評価
R 1	R 2	R 3	R 4	R 5							
	A: 企業債(※1)残高(億円)		793	779	778	774	793	1,171.0	45	D	
	B: 下水道使用料収入(億円)		51.4	50.8	51.2	51.6	51.8				
	下水道使用料収入に対する企業債残高(%) (A/B×100)		1543.5	1531.5	1518.4	1500.8	1530.2				%

評 価 内 容

中核市平均よりも高く、昨年度より指標も悪化している。
 悪化の要因は、企業債残高の増加によるものだが、この増加は国から普及率向上の加速化と昨今の気候変動に対応した浸水対策を早急に進めることが求められていることによるものであり、令和8年度までの一時的かつ計画的な増加である。
 10年概成(※2)の期限が令和8年度までであることから、令和8年度までは指標の悪化を許容し、将来的には残高の着実な削減および指標の改善を目指す。

※1 企業債 : 地方公共団体が、地方公営企業(例:大分市上下水道局)の施設建設等に要する資金を調達するために行う借入れのこと。

※2 10年概成 : 平成26年に国土交通省、農林水産省、環境省が共同で示した、10年程度を目途に汚水処理施設(公共下水道および浄化槽等)を概成させるという方針。
 概成の目安は汚水処理人口普及率95%以上。

【中核市平均との比較評価】

A. 平均以下で、良好な水準にある B. 平均を上回るが、指標が改善(維持)している C. 平均以下であるが、2年続けて指標が悪化している D. 平均を上回り、指標が悪化している

公 共 下 水 道 事 業

経営ビジョンの取組内容評価表

－ 強 靱 ・ 持 続 －

区分	強 韌	推進項目	(1)汚水事業の普及促進	経営ビジョン 対応ページ	P47.48	担当課	経営企画課 下水道整備課	
取組内容	①人口密度の高い地域の優先整備 ・人口密度の高い地域の優先的な整備により、効率的に 下水道処理人口普及率を向上 ・重点整備地域-----南大分・滝尾・鶴崎			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
				～R4	ビジョン期間(R5-14)			
		R5計画	R5実績		R14年度 普及率 80.3%	a	a	
	A：処理区域内人口(人)			324,055	335,596	332,020		
	B：行政人口(人)			475,163	473,726	473,101		
	普及率(%) (A/B×100)			68.2	70.8	70.2		

評価内容と今後の取組

・普及率は前年度から2ポイント増え、計画値には届かなかったものの99%と高い達成率となった。
事業費の財源を確保するため積極的に行っている国庫補助金の要望活動や、整備にあたっては住宅密集地と接続要望の多い地区を優先的に行うとする基本方針が効果的に作用しているものと考えられる。
・令和5年度もこの基本方針のもと、重点整備地域である南大分・滝尾・鶴崎で整備をすすめた。
今後もこの取組を継続し、普及率の向上を図る。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	強 韌	推進項目	(2)効果的な雨水排除	経営ビジョン 対応ページ	P49.50	担当課	下水道施設管理課		
取組内容	①雨水管きよの整備の促進 ・ポンプ施設を整備する地区の効率的な排水整備 ・汚水事業との同時施工による、効率的な工事の実施			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
					ビジョン期間(R5-14)				
	～R4	R5計画	R5実績						
	A：雨水整備済区域面積(k㎡)			79.4	78.9	80.1	R14年度	都市 浸水対策 達成率 78.2%	S
B: 公共下水道全体計画区域面積(k㎡)			106.8	106.5	106.8	都市 浸水対策 達成率			
都市浸水対策達成率(%) (A/B×100)			74.3	74.0	75.0				

評価内容と今後の取組

・令和5年度は、令和4年度に片島雨水排水ポンプ場が供用開始された片島・羽田地区において、ポンプ場につながる雨水管きよの整備を継続して進めることができた。また、浸水が想定される政所地区や南大分地区についても、雨水幹線の積極的な整備を進めた。令和6年度以降もこの取組みを継続して進めていくとともに、雨水排水ポンプ場の整備予定のある森地区についても、積極的に雨水幹線の整備を進める。

・整備工事が渇水期(11月以降)となるため完了が年度をまたぐことも多く達成率の伸び率には年度でバラつきがあるが、直近5年平均で0.7%であり、目標を達成する見込み。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	強 韌	推進項目	(3)下水道施設の災害対策		経営ビジョン 対応ページ	P51.52	担当課	下水道施設管理課	
取組内容	①下水道管きよの耐震化 ・重要な幹線(※1)の計画的な耐震化 ・管きよとマンホールなどの接合部分を耐震継手で接続することによる耐震化			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
					ビジョン期間(R5-14)				
				～R4	R5計画				R5実績
重要な幹線の耐震化延長(km)				28.6	29.6	28.6	R14年度 耐震化延長 38.3km	a	a

評価内容と今後の取組

令和5年度に実施予定であった大在汚水幹線については、当初国の補助金の配分減により実施できなかったが、国の補正で配分されたことにより令和6年度に施工をすすめ、7月下旬に完成した。
 今後は田尻・光吉汚水幹線について耐震化をすすめていく予定。

※1 重要な幹線：公共下水道管路施設総合地震対策計画(平成26年度策定)において「重要な幹線」と位置づけた管きよ。水資源再生センター・ポンプ場などに直結する幹線管きよ、法定河川及び軌道を横断する管きよ、大分市地域防災計画に位置付けられている緊急輸送路を横断する管きよ、市役所、支所、消防署などからの排水を集水する管きよのこと。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推 進 項 目	(4)危機管理体制の強化	経営ビジョン 対応ページ	P53.54	担当課	経営企画課	
取組内容	③浸水シミュレーションによる内水(※1)ハザードマップの改訂					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・市民に提供する水害リスク情報を拡充するため、既存の「洪水ハザードマップ」に過去の内水浸水を掲載したの から、浸水シミュレーションによる「内水ハザードマップ」への改訂							
	実績 / R 5 の計画・実績（取組）					R7年度 内水 ハザード マップの 改訂	a	a
令和3年度から約1,000ha/年の浸水シミュレーションを実施しており令和5年度末時点で約3,000haの浸水シミュレ ーションを実施した。								

評価内容と今後の取組

- ・目標である令和7年度の改訂に向け、「雨水出水(※1)浸水想定区域図」の作成と併せて作業がすすんでいる。
- ・令和6年度以降は、浸水シミュレーションが完了した地区から順次「雨水出水浸水想定区域図」を作成し、内水ハザードマップの改訂に向けた作業をすすめる。

※1 内水(雨水出水) : ここでは、集中豪雨などの大雨により、下水道(雨水管きょ)や側溝などで排水ができなくなった雨水のこと。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推 進 項 目	(5)管きょ・施設の効率的な維持管理	経営ビジョン 対応ページ	P55.56	担当課	経営企画課 下水道施設管理課
取組内容	②水資源再生センターの維持管理の効率化						
	・民間業者のノウハウ活用による、施設管理や業務範囲、委託期間の見直し ※ 平成14年度から、5箇所の水資源再生センター全てで包括的民間委託を開始している。 業務委託範囲は運転管理、薬品などの物品調達、水質分析、一定範囲の補修業務(平成26年度～)。						目標
	実績 / R 5 の計画・実績（取組）						目標 に対する 総合評価
	令和5年度は国が示したウォーターPPP(※1)をふまえ、水資源再生センターおよび管渠を含めた包括維持管理業務委託について、将来の導入可能性の検討を進めた。						R5 単年度 目標 に対する 評価
	—						—

評価内容と今後の取組

令和6年度は、ウォーターPPPの導入に向け、民間業者への意向調査等を通じて具体的な業務委託の内容について検討をすすめる。

※1 ウォーターPPP：下水道、水道、工業用水道の各分野で、「コンセッション(公共施設等運営事業)方式」と、コンセッション方式へ段階的に移行するための「管理・更新一体マネジメント方式」をあわせた総称。国による造語。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推進項目	(6)公共下水道への接続促進	経営ビジョン 対応ページ	P57.58	担当課	営業課	
取組内容	②公共下水道への接続助成制度の活用促進 ・共同住宅の所有者・大口利用者のうち、未接続の者や浄化槽設置年数が浅い者への接続依頼 ③未接続者への接続依頼・指導 ・整備計画説明会にて、各種助成制度の紹介 ・普及促進員の個別訪問による、接続依頼・指導			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
				ビジョン期間(R5-14)				
	～ R4	R 5 計画	R 5 実績					
	接続率(水洗化率)(%)			93.3	92.3 程度	95.2	R14年度末	
【公共下水道接続の助成制度】(令和5年度実績) ・水洗便所改造助成金 ¥15,250,000(298件、303棟) ・浄化槽公共下水道切替工事助成金 ¥ 7,370,500(56件) ・共同住宅排水設備工事促進助成金 ¥16,931,000(32件)						接続率 92.3% (R3年度)と 同水準程度	S	S

評価内容と今後の取組

・助成制度の活用は着実に水洗率の向上に寄与している。
 今後は、制度をより使いやすくするため要件の見直しを検討していく。
 ・令和5年度は、過去に説明訪問を行っていない地域の共同住宅の所有者等を訪問し接続を促すとともに、普及促進員業務を委託している民間事業者の地道な取組みにより、接続率(水洗化率)が目標のみでなく中核市平均(95.1%)を上回った。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	持 続	推 進 項 目	(7)独立採算に向けた財政基盤の健全化		経営ビジョン 対応ページ	P59.60	担当課	経営企画課	
取組内容	①下水道使用料の増収による、単年度収支の黒字化の達成 ②汚水事業における収支構造の適正化（経費回収率向上に向けたロードマップ）			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
				～R4	ビジョン期間(R5-14)				
					R5計画				R5実績
	当年度純利益(△純損失)(億円)			0	0	0	R9年度末以降 黒字化の 達成	S	S
	分流式下水道に要する経費(繰入金、※1)(億円)			2.8	4.6	4.4	R9年度末 0		

評価内容と今後の取組

収支不足をまかなう一般会計からの繰入金は、経営ビジョン策定時の想定を超える労務単価の上昇や燃料費の高騰などにより経費は増加しているが、整備促進や公共下水道への接続促進助成金制度の拡充等の取組みにより使用料収入の増収を図ることで、計画以下の額となった。
今後も使用料収入の増に向けた取組を継続することで令和9年度以降の繰入金をなくし、単年度収支の黒字化を目指す。

※1 分流式下水道に要する繰入金：合流式と比べ建設コストが割高になる分流式下水道に要する資本費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額を一般会計から繰り入れるもの。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

水 道 事 業 ・ 下 水 道 事 業

経営ビジョンの取組内容評価表

－ 安 全 －

区分	安 全	推進項目	(1)適正な水質管理	経営ビジョン 対応ページ	P61.62	担当課	浄水課		
取組内容	①安全でおいしい水道水の供給 ・水道法に基づく水質基準51項目を満たす割合(水質基準適合率)100%を維持 ・平均残留塩素濃度は、水道法に基づく基準を満たす0.1mg/L以上かつカルキ臭等の低減のため0.4mg/L以下(本市独自基準)を維持			実績 / R 5 の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
				～R4	ビジョン期間(R5-14)				
					R5計画				R5実績
	水道水の水質基準適合率(%)	100	100	100	100% 維持	S	S		
平均残留塩素濃度(mg/L)	0.35	0.1以上 0.4以下	0.37	0.1～0.4 mg/L の範囲内					
評価内容と今後の取組									
安全な水質を確保するため、令和5年度の水質基準適合率は100%を維持しており、全国の平均残留塩素濃度の水質管理目標値は1.0mg/L以下と設定されているなか、大分市では0.4mg/L以下を管理することで、安全でおいしい水道水の供給に努めている。 また人体への影響が指摘されている有機フッ素化合物であるPFOS・PFOAについても、全ての浄水場で国の定める暫定目標値の10分の1以下、定量下限値未満であることを確認した。今後も適正な濃度管理を継続していく。									
【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)									

区分	安 全	推進項目	(1)適正な水質管理	経営ビジョン 対応ページ	P61.62	担当課	浄水課	
取組内容	②水道GLP(水道水質検査優良試験所規範)の取得・運用					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・第3者機関(公益社団法人日本水道協会)が客観的に判断・評価・認定し、水質検査の精度と信頼性を保証する制度である「水道GLP」の取得、運用							
	実績 / R 5 の計画・実績（取組）					—	—	S
令和5年度は水道GLP(水道水質検査優良試験所規範)の認定を取得し運用を開始した。								
評価内容と今後の取組								
令和5年6月に審査申込をし、書類審査、現地審査を受け、令和6年2月20日付で水道GLP認定を取得した。 今後も水道GLPに基づく品質管理を実施し、2年毎に行われる審査を受審しながら運用を維持すると共に、水道水質検査に係る信頼性確保に努めていく。								
【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)								

区分	安 全	推進項目	(2)組織力の強化	経営ビジョン 対応ページ	P63.64	担当課	総務課	
取組内容	①上下水道局独自採用の継続による人材確保と技術の継承					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・独自採用による計画的な職員採用を行う ・働き方改革の推進 ・災害発生をはじめ緊急時における対応力を強化し、持続的な事業運営を確保するため、 バランスのとれた職員配置を実施し、技術の継承を円滑に行う							
	実績 / R 5 の計画・実績（取組）							
	令和5年度は上下水道局独自に技術職員5名を採用し、技術の継承が円滑に進むよう世代間バランスが取れた職員配置を行った。 また、働き方改革の推進につなげるため、全職員に対して業務の効率化に関するアンケートを実施した。					－	－	S
評価内容と今後の取組								
技術職員の採用については、厳しい状況が続いているが、令和6年度以降も引き続き上下水道局独自の職員採用を計画的に行うとともに、働きやすい職場環境の整備や、適切な職員配置を行うことで、人材確保と技術の継承に努める。 また令和6年度は、前年度に実施した業務の効率化に関する職員アンケート結果を整理し、取組める内容について職員へ共有および進捗管理を行っており、今後も引き続き効率化を図っていく。								
【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)								

区分	安 全	推進項目	(3)カーボンニュートラルの実現と資源の利活用	経営ビジョン 対応ページ	P65.66	担当課	浄水課 下水道施設管理課		
取組内容	①施設における消費電力削減や省エネルギー機器への更新 ・「大分市地球温暖化対策実行計画」に定める温室効果ガス排出量削減目標の達成。 ※第5期「大分市地球温暖化対策実行計画」では、 本市の目標：令和7年度に令和元年度(2019年度)比4.9%削減			実績 / R5の計画・実績（取組）		目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価	
					ビジョン期間(R5-14)				
		～R4	R5計画	R5実績					
	【水道事業】令和元年度(2019年度)比削減(%)			6.7	-	-25.4	R7年度 (R1年度比 4.9% 削減)	a	d
	CO2排出量削減に有効な高効率機器の更新を進めており、令和5年度に古国府浄水場における受変電設備の高効率機器への更新工事が完了した。								
	【下水道事業】令和元年度(2019年度)比削減(%)			5.8	-	-31.0		a	d
老朽化した電気・機械設備等の更新時には、高効率な省エネ設備機器の導入を図ることとしており、令和4～5年度にかけては原川水資源再生センターの汚水主ポンプを改築工事の際に高効率型ポンプへと変更した。									
評価内容と今後の取組									
【水道事業】 令和5年度は、令和4年度よりも電力使用量が減少したが、CO2排出量の算出に用いるCO2排出係数が増加した(R4:0.296 → R5:0.407 kg-CO2/kwh)ことにより削減目標に達しなかった。今後も予定している主要浄水場等における高効率機器への更新を行っていく。									
【下水道事業】 令和5年度の電力使用量は、集中浄化槽団地の引き取りにより微増したものの、令和4年度とほぼ同水準となった。削減目標に達していない主な要因は、CO2排出量の算出に用いるCO2排出係数が増加した(R4:0.296→ R5:0.407 kg-CO2/kwh)こと。 今後も引き続きCO2排出削減対策として、水資源再生センターにおける高効率型ポンプや低圧メンブレンの導入等、高効率機器への更新の取組を継続していく。									
【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)									

区分	安 全	推進項目	(4)DX（デジタルトランスフォーメーション、※1）の推進と広域連携への取組	経営ビジョン 対応ページ	P67.68	担当課	経営企画課	
取組内容	【広域連携】④管路台帳システムの共同利用					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・災害時に県内事業体との迅速な対応が可能となるよう、システムの共同利用に取り組む							
	実績 / R 5 の計画・実績（取組）							
・上下水道施設の適切な維持管理や計画の策定、配水管網における水道水の動きの解析等を総合的に支援するシステムとして令和5年1月に構築完了、同月本番稼働を開始した。 ・災害時に県内事業体との迅速な対応が可能となるよう、システムの共同利用に向けた取組を進め、令和5年度は津久見市と臼杵市が共同利用を開始した。また、県内の各事業体に共同化への意思確認や課題等のヒアリングを実施した。						—	—	—
評価内容と今後の取組								
各自治体への共同利用に向けた取組により、津久見市と臼杵市の2市が共同利用を開始した。 今後も引き続き、災害時に県内自治体との迅速な対応が可能となるよう、システムの共同利用に向けた取組みを進める。								

※1 DX(デジタルトランスフォーメーション)：自治体におけるDXは、行政手続のデジタル化や行政内部のデータ連携などを通じて住民の利便性向上と業務効率化を図ること。

【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)

区分	安 全	推進項目	(5)お客さまサービスの充実	経営ビジョン 対応ページ	P69.70	担当課	経営企画課	
取組内容	④広報・啓発活動の充実					目標	目標 に対する 総合評価	R5 単年度 目標 に対する 評価
	・お客さまのニーズを把握するためのアンケート調査等の実施 ・広報誌・ホームページなどの内容の充実							
実績 / R 5 の計画・実績（取組）						市民意識調査 における満足 度平均スコア	a	a
・令和5年度に市で実施した市民意識調査における満足度平均スコアは「水道：3.21、下水道：3.01」であった。 ・令和5年度は毎年実施している「わくわく上下水道たんけん隊」等に加えて市主催のスポーツイベントでの ブース出展を行い、多くの市民に対し広報活動を行った。また、2年に1度局独自で行う水道事業に対する市 民アンケート調査を実施した。						R3年度と 同水準程度 (水道:3.25 下水道:3.07) を維持		
評価内容と今後の取組								
・市民意識調査ではスコアが若干低下したものの、市の総合計画42政策のなかで継続して「満足度も重要度も高い取組」として高い水準を維持している。 ・令和5年度に行った局独自の市民アンケート調査により、水質や水道料金に対する市民の関心度が高いことが確認できた。今後も広く市民に上下水道事業への理解を深めてもらうため、アンケート結果をもとに、広報紙やホームページ、SNS、イベントでの広報内容の充実を図る。また新たな広報手段の検討など、積極的な啓発活動を行っていく。								
【進捗評価】 s:達成、目標を上回って達成(100%以上) a:おおむね達成(80-99%) b:やや達成(60-79%) c:やや停滞(40-59%) d:停滞(0-39%)								